

苫小牧市総合教育会議議事録

会 議 名	第 1 1 回 苫小牧市総合教育会議
日 時	令和 2 年 7 月 2 2 日 自 1 4 時 0 0 分 至 1 4 時 5 7 分
場 所	市役所本庁舎 5 階第 2 応接室
出 席 者	市 長 岩 倉 博 文 教 育 長 五十嵐 充 教 育 委 員 佐 藤 郁 子 教 育 委 員 植 木 忠 夫 教 育 委 員 齋 藤 智 子 教 育 委 員 岡 田 秀 樹
欠 席 者	
事 務 局	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 斎 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 田 中 真 奈
協 議 事 項	(1) 苫小牧型小中連携・一貫教育について (2) その他
会 議 の 経 過 概 要	別紙のとおり

1 開会の宣言 . . . 14時00分
(岩倉市長) それでは、定刻となりましたので、第11回目苫小牧市総合教育会議を開催させていただきます。
今ほど、苫小牧市立東小中学校の新校舎の視察をしていただき、お疲れさまでございました。汗は引けましたでしょうか。ご案内のとおり、新型コロナウイルス感染状況について、ちょうど明德小学校の閉校記念式典が行われた2月22日に2例、23日に2例、29日1例、合計5例ということで苫小牧市は2月に第一波が来たわけですが、学校現場も臨時休校を含めて、大変ご苦勞をかけてきたわけですが、その後、感染状況は落ち着きつつあり、6月から子供たちも元気に登校しているということでございます。苫小牧市では、第1段階として感染拡大防止と地域経済対策、そして子供たちの日々という3つの重点軸で様々な対策をしてきました。先般、市議会臨時会があり、国の第2次補正予算に係る様々な支援策を提案させていただきました。これからは感染拡大防止、あるいは地域経済対策、そして健やかな日常ということで、この中で子供たちへ様々な対応をしていきたいと考えております。特に学習の保障、あるいは心のケア、ここをしっかりと現場を見ながら対応をしていかなければならないと考えております。いずれにしましても、しばらくは感染状況を確認しながら進んでいくこととなりますが、子供たちの日々をどう守り育てていくかという観点から、また皆様方からも色々なご意見を聞きながら対応していければと思います。
2 協議事項
(1) 苫小牧型小中連携・一貫教育について
(岩倉市長) 本日は、「苫小牧型小中連携・一貫教育について」を議題としておりますが、事務局、そして苫小牧東中学校の五十嵐校長から、これから冒頭にそれぞれ

説明をいただきまして、意見交換をさせていただくこととなりますので、よろしくお
願いをいたします。それではまず、事務局からお願いいたします。

(教育部参事) 改めましてこんにちは。教育委員会指導室、池田でございます。苦
小牧型の小中連携教育について、私の方からは、まず第1部として苦小牧市の小中連
携教育について数分間お話をさせていただきます。その後、苦小牧市の小中連携教育
の実情ということで、苦小牧東中学校五十嵐校長からお話をいただきたいと思います。
まずは第1部、どうぞよろしくお願い致します。

苦小牧の教育は、学校教育力をどんどん上げていく、組織力を上げていくというこ
とで、苦小牧市学校教育力向上マスタープランに基づいて行われています。この中の
柱が「小中学校9年間の確かな成長を目指して」ということで、「生きてはたらく力
を身に付けた15歳の苦小牧っ子」です。義務教育9年間のゴールである15歳の子
供たちに、しっかりとした力を身につけて卒業してもらおうということをコンセプト
にしております。その中で、苦小牧型の小中連携教育推進基本方針を今年の3月に定
めました。この「Tomakomai ALL-9」という、「ALL-9」とは何
かということですが、「ALL」というのは、15歳までの義務教育9年間、全ての
児童生徒のために、その教育に関わる全ての人が責任を持つということです。9年間、
それに関わる教職員、地域、保護者の全てが子供たちの成長に関わるという視点での
連携教育を進めていくということでございます。方針が4つあります。15歳の義務
教育のゴールである子供がこんな子供だったら良いなという、目指す子供像を小学校、
中学校でしっかりと共有する。ゴールを定め、そしてそのゴールを目指して連続性、
系統性のあるカリキュラムをつくっていく。小学校、中学校を中心に子供たちの交流
や先生方が共に働いていくというような協働する教育を目指していく。さらには特別
な支援が必要な部分については、円滑な接続のために学校間の連携、福祉関係等の機
関と連携をしながら、学びの連続性を大切にしていきたいということでございます。小中
連携教育はどういう力を育てていくのかというと、生きて働く力、未来を担うための
資質、能力、これは全国のどこの学校でも大切にしている学習指導要領に定められた

ものです。生きて働く知識、技能や新たな状況に対応できる思考力、判断力、表現力、そして人生に向かって自分をどんどん活かそうとする学びに向かう力、人間性、これと一緒に、ただ、小学校と中学校の学びに連続性があったときに、さらに子供たちに身につけさせる資質・能力が大きくなるだろうということでございます。

次に、苫小牧市の小中連携教育を行っているエリアです。それぞれの中学校区を基に15に分かれています。理想的なのは植苗小中学校の併設型です。または1小1中、2小1中という学校は分離していますが、A小学校、B小学校がC中学校に行くという、このような形が理想ですが、西側や東小中学校など、モデルエリアになっていますが、西小学校の子が東中学校に行く子もいれば光洋中学校に行くというような、複数の進学先がある小学校が結構あります。このエリアの部分が、結構問題になっています。

次に、各エリアの取組でございます。15のエリアが苫小牧市の学校教育力向上マスタープランを基に、学校教育力向上連絡協議会が年に2回あります。最初に方針を定め、最後に締めくくるこの連絡協議会に基づいてそれぞれのエリアでエリア経営会議が行われます。この経営会議に基づいた部会が最低3つあり、4つあるところもあります。このエリア経営会議についてももう少し説明します。エリア経営会議は、各小中学校の校長、教頭のほか、管理職が指定した主幹教諭や教務主任の先生で構成されています。目指す子供像を設定、ALL-9のプランの作成、それに基づいた基本方針を決め、さらには点検評価をするというような重要な会議です。それぞれの部会はどんなことをしているのかというと、例えば学力向上部会は、小学校から中学校にスムーズに行くようなカリキュラムの接続の研究をし、小中連携に特化した授業改善の推進をしています。道徳教育部会では、道徳の授業参観や道徳教育推進教師の交流をしています。特別支援部会では、いろいろなケース交流をしたり、連携を深めたりと、行っていることは様々ですしこれからもさらに進化していくと思います。

次に、小中連携教育で取り組んでいくことの例として、エリアで目指す子供の姿が共有でき、一緒になります。つまり、行おうとしている教育のベクトルが揃うという

ことです。目指す子供の姿を共有し、同じベクトルで進めていくことができるということが非常に大きなメリットかなと思います。さらにはエリア内での乗り入れ授業があります。中学校の先生が小学校に来て授業をし、子供たち同士が交流することを積極的に広げていったときに、子供たち同士、または教職員同士の交流やスキルアップにもつながっていき、さらにICTを活用すれば、場所を超えてどんどん交流もできていくのかなと思います。苫小牧の小中連携教育は、まだまだこれから進化していくと思います。しかし、課題もそれなりにあります。大きな事業ですので、時間もかかります。その時間を生み出すということも課題ですし、さらにはエリアを超えたつながりも大事になってくるのかなと思います。いろいろな課題もありますが、教育的効果が非常に大きいので、ぜひしっかりと前に進めていきたいと思っています。私からは以上です。

(岩倉市長) それでは、五十嵐校長から学校の取組についてお願いします。

(五十嵐苫小牧東中学校長) 苫小牧東中学校の五十嵐でございます。私からは、今、池田参事から市内全体の小中連携教育について説明がありましたが、本校区、東中学校区における小中連携教育のその具体について説明をさせていただきたいと思っています。本校区の紹介をします。本校区は若草小学校、東小学校、そして西小学校の一部の子供たちがうちの学校に来るという構成であります。本日、先ほどご覧いただいた新しい校舎に入るのは、実はこの校区の中の東小学校しか入ってこないということです。ですから、施設併設型の連携校は東小学校だけです。東小学校と東中学校は施設併設型の連携校になりますが、あとはうちの中学校に来る多くの子供たち、若草小学校と一部の西小学校の子供たちは施設分離型の連携校となり、いわゆる施設併設型と施設分離型の連携校が混在するという校区になります。校区編成上の課題が実はここに見えてくるということなのです。新しい施設併設型の小中学校をつくりましたが、実は、小中一貫校でもなければ、義務教育学校のどちらでもないのです。しかし、小中併設型の校舎最大の利点を活用して、小中連携教育をしていきたいなと思っています。そこで一番のメリットは、学校間を隔てる壁が少なくなるということです。実は、小中

学校の壁には非常に高い壁があります。これは6年生から中学校1年生に上がる時に、学習面や心理面でかなりのギャップが生じます。学習内容もかなり変わり、心の部分では非常に大きく変化します。実は、この壁が非常に厚いのです。これが中1ギャップと言われているもので、昔はそうでもなかったのですが、今の子供たちはこの壁に苦しむのです。そして不登校や、学校不適應を起こす子供たちが非常に多いのです。そこにメスを入れていくということで、今回の併設型校舎を有効に活用するというのが、本校区における小中連携教育です。そこで、他の校区との違いは何かというと、施設併設型校舎を使った究極の小中連携教育を目指すことができる校区になり得るということで、説明を展開してまいりたいと思います。

各中学校区どこでも掲げています、目指す15歳の子供像について本校区では、小中学校の先生方が知恵を出し合って、今の子供たちの課題を抽出し、どういう子供たちを育てていきたいのかということを経験してまいりました。そこで掲げたのが、「自分で気づき、自分で考え、主体的に学ぶことができる15歳」を目指していこうということです。これを9年間で、そして中学校3年生の理想的な子供、ここをゴールに持っていくということで、小中連携して教育活動を展開しています。ここに近づけるために3つのコンセプトでこの子供像を目指していきたいと思っています。当然、小中併設校舎を十二分に活用してまいりたいと思います。コンセプトの3つ、「子どもをつなぐ」、「教員をつなぐ」、「地域をつなぐ」、これについて一つ一つ説明していきます。

まずは、「子どもをつなぐ」について、どういうことで子供をつなぐかということ、ご覧いただいているように、中学校の体験入学というのをどこの中学校区でも行っていますが、本校区では2回行い、丸1日、中学校に来て、1時間目から6時間目まで子供たちは中学校の授業を受けます。これが他の校区とは違います。そして給食を食べ、中学校で初めて習う英語や専科の授業を深く学べる体育だとか美術だとか技術という教科を中心にして学習をしている様子です。これは英語ですね。こちらは国語の様子ですが、先輩は後輩が来たのでお世話をしようということで、給食交流という場

も設けています。食事を取る中で子供たちの心を開放していきますので、こういったことで先輩が後輩の面倒を見るというような場面も意図的に設定しています。次に、子供をつなぐ取組として、「夏休み学習サポート」といって、中学生が自分の出身小学校へ行きます。これは、小学校の学習の支援を行っている様子です。中学校の生徒にとっても実は、自己肯定感が非常に高まる取組の一つです。自分の学び直しにも活きてきますし、自分は後輩の役に立っているという実感を持つことができ、非常に小学校の先生方からもこの取組は評価が高いです。小中合築校舎になると日常的に交流していけるのではないかなと期待が持てるところです。次に、こちらをご覧くださいたいのですが、これは小学校の児童会と中学校の生徒会と一緒に集会を開いている様子です。もちろんこれは教師主導ではありません。児童と生徒が主導していじめ撲滅について集会を開いている様子です。いじめを根絶させるためにどうしたら良いか、自分たちの意識は一体今どこにあるのだろうか、なぜいじめは起きるのだろうかという話をみんなで話しているのですが、やはり先輩である中学生が主導して、小学校の頃からみんなで仲良く、みんなで協力し合いながら生活するということをここで深めている様子ですが、これも新しく建った校舎においては、十分やっつけていけるなと思っています。また、これは子供をつなぐ新たな取組で、新設校舎を活用するとこんなことができるということで、いろんなことを今考えています。配付した資料の最終ページに、事細やかに小中連携教育の取組の中身の具体が書いていますが、特徴的なものだけ説明しますが、朝の挨拶運動一つ取っても、今までは中学校、小学校それぞれで行っていたのが、お互いの児童生徒会が連携して挨拶運動を展開していただけます。また、日常的に部活動へ小学生が体験に来て、早い段階から中学校の部活動に触れることができます。そしてこれが売りなのですが、図書室をご覧くださいと思うのですが、あの図書室、使い勝手が非常に良いのです。新校舎の中で唯一、小中学生が交流できるスペースになっています。小学校に学校司書が居ますが、中学校でも活用させていただき、そこに小学校の図書ボランティアのお母さん方が来て、中学校の図書委員の子供、これらが融合されて理想的な図書室運営が出来ていくなど今、考え

ているところです。そして児童図書、生徒用図書、小中それぞれ図書を持っていますが、自由に貸し借りできる、そんなシステムをつくり上げようとして、今、中央図書館とも連携を取り、どういう図書室運営をしていったら良いかということを考えているところです。また、図書室のスペースを使って今年度から各中学校区に一人、ALTの配属が予算化されました。これを活用して放課後、ALTがこの日は小学校のコミュニケーション活動を行う、この日は中学校のスキルアップのために英検3級を目指した高度な学習をするなどといったことができると思っています。この日は小中連携で小学生、中学生が英語でコミュニケーション活動をしよとか、そういう場所にしたいなと思っています。そういう夢が広がる拠点になるのではないかなと今、期待を膨らませているところであります。

次に、教員をどのようにつないでいくかということですが、これは小中合同研究の様子ですが、向かって左側半分は、体育の授業を小学校、中学校の先生方でどうやったら体育の授業をより効率的に効果的に展開していくことができるかと話し合っています。中学校には体育の専科の先生が居ます。しかし、小学校は全教科教えなければならぬので、知識は浅く広いです。そこで、一緒に練り合いながら実際の授業は中学校の先生が担います。いわゆる乗り入れ授業です。そうすると、より専門的な技術を小学校の先生も一緒に学び合う機会になるという利点もあります。こちらは数学の授業を小学校、中学校の先生方でつくっている様子です。中学校と小学校の大きな違いは、中学校の教科の専門性です。しかし、授業が抜群に上手いのは小学校の先生です。小学校は丁寧で分かりやすいのです。中学校は専門性があります。そこを融合すると分かりやすく丁寧に、しかも深く学びが浸透していくだろうということです。これは数学の研究授業を議論している様子です。中学校の先生方は授業を公開し、小学校の先生も一緒に見て、どういう授業をつくり上げていくのが一番良いのかということの研究している様子です。これもこれからは、新校舎を使って数多く行っていきたいなと思います。もちろん東小学校だけではなく、若草小学校の先生方も交えて展開していこうと思います。次に、これも教員をつなぐということで、夏休みの補充的な

学習の中で、こちらは中学校の先生です。中学校の先生が小学校の子供たちに英語と国語を教えています。こちらは、あんまり他の校区にありません。小学校の先生が中学生、いわゆる自分の教え子、卒業生の面倒を見ている様子です。今の古い校舎で自分の教え子たちに、教えている様子です。中学校に入って数学でつまづく子供がいます。そうすると、小学校の頃の数学のどこでつまづいたのかということも小学校の先生が改めて感じ、学び直しを子供と一緒にしている様子です。子供たちは小学校時代に習った先生ですから、非常に親近感を持ちながら深い学びを展開している様子です。これは、本校区が一生懸命、今までずっと行ってきました。これからもより深く展開していけるかなと思っています。

最後です。地域が子供たちをつないでくれるということで、本校区には苫小牧東地区青少年育成連絡協議会がございまして、年に1回必ず会を催してくれて、小学校もしくは中学校で児童会と生徒会の交流の場面を設けてくださっています。児童会はこういう活動をしています、生徒会はこういう活動をしていますという発表の場を設けていただいて、児童生徒の交流機会をつくっていただいています。

また、アトラクションでふれあいコンサートという吹奏楽部の中学生が演奏をし、東小学校にはマーチングがあるのですが、交流し合って深めている様子です。他にも、PTA活動も非常に活発で、若草、東小、西小、東中のPTA活動でお互いにお母さん同士交流していただいております、これもさらに深めていけるなと感じています。学校評議員会がありますが、これも小中合築校舎になりましたので、東小学校と東中学校の評議員会は年に1回は一緒に合同でできるなと思っています。ここは特徴的になるかなと思っています。そして最後になりますが、図書室の地域開放です。これはすぐにはできませんが、新型コロナウイルス感染症が収束したときには、地域の保育園だとか幼稚園の子供たちが図書室を訪れて小学生と交流するということになれば、幼小連携になります。そうすると、幼稚園、保育園、小学校、そして中学校の連携と、限りなく連携の輪が広がっていけるだろうと感じています。地域にも開放できるような学校施設になれば良いなと思っています。

<p>最後になります。やはり教育には夢が必要であります。ただ、この夢を広げていくための大きなブレーキとなっているものもあります。同じ屋根の下で住んでいるわけですから、東小学校と東中学校は円滑な支援体制を構築することができます。新しい校舎はとても良いですよ。交流もできる、図書室も素敵で教室も新しい。しかし、一番多くの子供たちが通うであろう若草小学校の子供たちは別の校舎にいるのです。</p>
<p>小中連携をしていく上で、非常にそこが足かせとなっていくのですが、若草小学校も含めて施設分離型、併設型の連携校であるけれども、同じ中学校区に居るわけですから、連携をさらに深めていきたいなどに思っています。保護者も子供たちも関心事は若草小学校なのです。3校が互いに連携を深めなければ、実は本当の意味での連携にはつながっていかないので、非常に気を遣いながらやっていきたいなと思います。</p>
<p>また、やはり教育をするに当たって、この新設の小中連携を極めていくあの校舎を将来的にどうしていくのかということです。これは学校現場では絶対につくってはいけないのです。若草小学校の児童数の減少とともに、将来的には義務教育学校にするだとか、一貫教育をするというコンセプトがあるかないかで、これからの学校運営は大きく変わっていくと思います。究極の連携教育と掲げました。思い切って究極の連携教育しようと思っていますが、やはりそこには限界があります。将来的には一貫校、義務教育学校にできるようなもし展望があれば、そのきっかけをこれからつくっていきけるかなということなのです。そういう夢を描きながら新しい教育活動を進めてまいりたいと思いました。以上でございます。</p>
<p>(岩倉市長) ありがとうございます。それでは、今、説明がありました件について、委員の皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思っておりますけれども、恒例であります。お一人お一人、今の印象でも結構ですし、ご質問でも結構です。植木委員からお願いします。</p>
<p>(植木委員) 今日は新しい校舎を見ることができて、私も大変感慨深いものがありました。ちょうど今から10年前、2年間あの学校で暮らしていましたので、子供にとっては大変嬉しいことだなと思いながら、今日は見させていただきました。今、池</p>

田参事と五十嵐校長から、いろいろ説明や構想をお聞きして、そのとおりだなと思
ながら伺っていましたが、私は、結論を先に言うと、一貫教育の方向に行くべきか
と思っています。かつて私は、昭和の時代に育ちましたので、学校が終わって外に遊び
に出かけると、上級生から下級生までいっぱいいましたから、その中で培ってきたこ
とが、現在の社会的背景ではできなくなっています。だとすると、子供の時間を紡い
でいくためには、どうしてもたくさんの上の世代、下の世代とつながっていく関係性
をつくっていかねばいけなかなと思うのです。苫小牧市は今、ALL-9とい
う考え方で、全ての教育に関わる人たちが上手に関わって、いわゆる生きる力をつけ
ていこうという、構想があるのですよね。構想そのものは私も大賛成ですし、五十嵐
校長がこれからつくっていこうと考えられていることにも大賛成ですが、本市として
この連携教育、一貫教育をどのようにしていくかという視点に立つと、一部では
コミュニティ・スクール構想や、勇払地区や開成地区で考えられている地域一体型の
教育、それからもう一つは、先ほども出ましたエリア型です。15のエリアで進めて
いくわけですから、その構想というのは利点もあれば、弊害、つまり問題が出てくる
ことも恐らくあるわけですから、そのところもやはりしっかり考えていかねば
ならないです。それからコミュニティ・スクール型でいくのか、エリア型とするのか、
最終的には一貫教育でいくのかという、この辺の構想を教育委員会全体として、市長
にもぜひお願いをして、そういう構想を持っていかねばいけないと思います。こ
の構想そのものは、今、レポートを見させていただいたとおりですが、では、具体的
に何をやっていくのかということになると、恐らく授業体験、あるいは先生方の小中
の渡りみたいなことをして授業をしていくとか、そういう回数を増やし、成果を指導
室が押さえる等、年次計画というか、そういうものをある程度、教育委員会側が押さ
えておかないと、なかなかどう行うのか難しいのではないかと思います。その時々
の校長、あるいは職員同士だけでは少し無理なところもあろうかと思しますので、その
辺は今後、考えていくほうが良いのではないかと私は考えています。
(岩倉市長) では、岡田委員お願いします。

<p>(岡田委員) 今日新しい校舎を見学させていただきました、私も小学生の頃を考えますと、教える学校から学ぶ学校といえますか、何かライトもソフトですし、明かりが外からいっぱい入ってくるような、そういう校舎で大変学校も変わったのだなどというような印象を受けました。</p>
<p>それで、小中の連携という今日の議題でありますけれども、社会的な情勢の中で、マニュアル的な人間というか、もうマニュアルが決まっていますそれに基づいて何かしていくというのではなくて、これからは自分で自主的に考え、創造していくような、そういう仕事、方向にだんだんなっていくと思うので、それに対応していく人を育てていく、そういう教育が求められていると思います。学習の内容も英語教育が小学校に取り入れられ、やはり一つの中学校、小学校のまとまりの中でそういう子供の育て方をしていく必要があるのではないかと思います。小学校の小さい子からしてみたら、お兄さんを見てまたいろいろ刺激を受けるでしょうし、中学校の生徒も子供たちが新しく入ってきたら、自分のその頃を思い出しながら、小さい子に対する思いやりも出てくるでしょうし、そういった情操的な良い面があると思います。最終的に義務教育というのは、その子供が将来大人として育っていく中での、基礎的な学習ということが基本です。例えば、私たちはスポーツをやるときは自分の好きなスポーツを楽しみますが、学習もスポーツのように楽しむ、そういう人を育てるのが、これから大人に向かっていく中で、そういったその人の人格、考え方の基礎をつくるのが義務教育ではないかと思います。そういう意味でも今まで6年、3年と分かれているのが一つにまとまり、子供たちが一緒に9年間で考えていこうというのは方向性としては良いのではないかと思います。ただ、私もそうでしたが、中学になるといろいろと悩みが出てくる年代です。大人と子供の間の中間というか、どちらでもない、心はまだ成長期ですが、体は大人の方に向かっている、そのバランスがない中で、ちょっとしたじめ問題だとか、あるいは非行だとかいろんな問題が出てくる、それが中学の年代なので、その個別の生徒への対応というのは、一貫の中でもやはり中学は中学で子供にとっては特殊な年代でもあるものですから、その辺の心のケアも必要になってくるか</p>

など思って聞いていました。

(岩倉市長) ありがとうございます。佐藤委員お願いします。

(佐藤委員) 今、お話を伺い、苫小牧の「ALL-9」は、素晴らしい小中の連携教育の計画だと思いました。ただ、15のエリアの環境の違いというのは、どうしても東西に長いということもございませし、学力や道徳や特別支援の考え方についてもそれぞれ温度差があるのではないかと感じております。教育委員会で一定の基準をつくることも必要だとは思いますが、一律ではなく、地域の要望などを取り入れて、その環境に合わせた内容や、求められているものに対応できるような、余裕がある「ALL-9」であってほしいなと思いました。それから、先ほど新しい東小中学校の校舎を拝見しまして、ビオトープがあった東小学校の違いに驚き、新しい環境で様々な先生方から支援を受けながら勉強していく児童や生徒の教育効果というのがいかばかりなものかと思ひながら、隅々まで拝見させていただきました。池田参事からご説明もありましたし、五十嵐校長からのお話もございましたが、バランスを取るといふことで、特に若草小学校との連携というものを、この東小と東中のタイアップした内容のところは若草小がどのように入っていくか。また、見学やお話を伺いながら、西小の一部の通う児童生徒への配慮、そういうものも難しいなと思ひながら考えておりました。以上です。

(岩倉市長) 斎藤委員お願いいたします。

(斎藤委員) 今日は見学させていただきました、ありがとうございます。実は私の子供は東小、東中出身で、私も東小でPTA活動を行っていましたので、思い入れは人一倍あります。多分、東小の子供たちは引っ越しをしたらびっくりして固まってしまうのではないかなと思ひほど素晴らしい校舎で、新しい校舎で勉強や学校生活を送る日が来るのをすごく楽しみにしていると思ひます。今回、東小と東中の校舎ができたことが、まず、苫小牧市の大きな第一歩を歩み始めたと思ひます。学校が一緒になることによって、今回、池田参事や五十嵐校長のお話をお伺ひして、本当に素晴らしい第一歩を踏み出すことができたなと思ひています。素晴らしいことだけを今、想

<p>像をして、非のつけどころがないなと思っているのですが、この東小中でこれから第一歩を踏み出したことで、いろいろな問題も目に入ったり耳に入ったりしてくることもたくさん出てくると思いますので、それを参考にこれから苫小牧市としてどういう体制をつくっていくのかということ、また、この東小中のように併設校の学校を増やしていくのか、それともまた全然違う分離型でいくのか等、これからの苫小牧市の教育の在り方を考える上での一つのモデルケースとして、学校の先生方や教育委員会が頑張っていかななくてはいけないのかなと思います。先ほど、佐藤委員もおっしゃったように、やはり気になるのが若草小学校の事です。先生方もそこが一番やりづらいのではないかなと思いました。若草小のお子さんや保護者の方もそこが一番気がかりではないのかなと思うのです。ですから、東小学校の子供以上に若草小学校の子供に気配りや何かできることを考えて、そこをデメリットと感じないほどの手厚いケアができればいいかなと思います。また一方で、一緒にできなかったことというのは残念なことですけれども、もしこれからこういう学校が増えていくとして、小学校、例えば東小の子も若草小の子も一緒に一つの学校で学ぶとして、中学校まで行くとなると、ずっと9年間、同じ子が暮らしていくことになります。それはそれでメリットもある一方で、デメリットももしかするとあるのかなとも感じます。中学校の段階で新しい人たちがまた入ってきて、また新しい関係がそこでできるということも、子供たちの成長の一つにもなると思いますので、単に9年間同じ子供がずっと一緒に通うということが必ずしも良いことなのか、どうなのだろうという、自分でもちょっと良いことなのか悪いことなのか分からないのですが、中だるみといいますか、同じ環境で何かあったときに行きづらいことが生まれないのかなと、少し気がかりがありました。以上です。</p>
<p>(岩倉市長) では、教育長、お願いします。</p>
<p>(五十嵐教育長) 今、お二方のお話を聞き、本当に夢のあるすばらしい連携教育が進んでいくなど、何か期待を大きく持って聞かせていただきました。特にいろいろ例があって、東小中のところだと、図書室の運営を中央図書館と連携をしている、ある</p>

いは今後、保育園、幼稚園にも開放していく考えも持っているということ、大変すばらしいなと思いました。また、教員をつなぐという五十嵐校長からの話の中で、小学校の先生が中学校に上がった生徒の面倒を見る、学習の面倒を見る、そのことによって中学生がどこでつまづいたのかということ、子供自身が学び直しをすることと同時に教員も学び直しをするというのは、自分の教え方にどこに問題があったかと気づき、授業改善につながるというところで、非常に教員をつなぐというテーマから考えでも、すばらしいことを行っており、今後もまたそういうことができいくのではないかなと期待を持って聞いていました。

やはり気になるのは、お二方もお話しされていましたが、若草小学校のことですけれども、五十嵐校長に少しお聞きしたいのですが、去年、神奈川県の見察で何か所か見られたときに、やはりこの分離型の連携校というのがあり、苫小牧でいうと東、若草、そして東中みたいなのところが、視察先にあったかと私も記憶しているのですが、そのときに今後、若草小との関係を参考にできるようなことが何かあったとしたら、それを少し教えていただければと思いました。

(五十嵐苫小牧東中学校長) 視察に川崎市等へ行ってまいりました。市の指導室の職員と一緒に行ったのですが、うちと同じような課題を抱えている中学校区を中心に回りました。いわゆる行政だとかいろいろ問題を抱えながら、でも施設が老朽化してきて学校を小中一体化しなければならず、でも校区の問題は残りましたというところに行ってきました。うちのように若草小学校のような分離型を抱えている、そういう中学校区にも行ってまいりましたが、やっぱり非常に気を遣いながらやっています。ただ、そこばかりフォーカスしてしまうと、本来の施設併設型の校舎のメリットがなくなってしまうので、そこは十分連携を取りながら、割り切ると言う失礼ですが、連携を取りながらやっていくということをお話ししていました。ただ、絶対違うということはず、なるべく行事にでも取組でもお誘いをして、一緒に行く機会是一緒に行くという場面を多く設定しているという話はしていましたが、正直な話、限界はあるという話をしていました。

<p>(五十嵐教育長) ありがとうございます。</p>
<p>(五十嵐苦小牧東中学校長) うちとの大きな違いは、多くは少人数の学校が分離して、うちみたく多くの子供たち、3分の2ぐらいの子供たちが入る、こういうスタイルはあんまりないのです。そこはちょっと違うところかなと思いました。</p>
<p>(岩倉市長) 今、お一人お一人の委員の皆さんから意見がありました。指導室長、何か感じたことありますか。</p>
<p>(教育部参事) 東小中学校という建物ができて、また新しいつながり、連携ができてくると思います。その新しいモデルを苦小牧市で広げていき、苦小牧型の連携教育がさらに広がっていったら良いなと思いますし、そのようになるように頑張っていきます。</p>
<p>(岩倉市長) 当然、苦小牧市にとっては第一歩ということになります。ただ、これは個人的な意見ですが、やはり時代が求めているのは一貫教育だと思います。一貫教育に至る中二階の措置が今回の措置というようなイメージですが、そう考えると、一番心配なのは、子供たちにとって中途半端な環境にならないように、これは第一歩なものですから、やはりそれぞれの学校経営の中で相当、頑張っていただかなければならないと思います。これが良い事例として残れば、これからはだんだん一貫校の方向に行かざるを得ないという時代背景、時代のトレンドになっていくのではないかと考えていまして、そういう意味でも非常に大事な一歩、歩みです。校長、プレッシャーをかけているわけではないですが、そういう意味では大いに期待したいなと思います。どんなことを行っても例えば東小と若草小との関係が、完璧になるということはなかなか難しいと思います。そういう学びを受ける子供たちにとっても、これは初めてのことでありますので、できるだけ早く子供たちに慣れてもらい、教育委員会が目指す方向に引っ張って行くにはどうしたら良いのかということをご検討しながら、良いモデルになっていただきたいなと思います。非常に現実的な話で1点だけ心配しているのは、今、いじめが社会問題となっています。こうした併設校になった場合にいじめの実態がどうなっていくのかということ、私個人的には非常に注意深く見ていき</p>

<p>たいなと思っています。何も変化がないかも分からないし、やはり併設校になって新たにいじめが深くなっていくのか、あるいは広がっていくのか、どういうきっかけでいじめの発生が変質していくのかというところを見ていきたいなと思っています。最後になりますが、例えば小学校でも中学校でも1学年1クラスですずっと上がっていくというのは、教育的には良くないことです。これは文科省の指導で、もう随分と前から聞いてきた話です。しかし、今の時代を考えたときに本当にそうかという問い直しをやはりしていく必要があるのではないかと思います。確かに、子供たちの環境は1年1年いろいろなコミュニケーションがあって、いろいろな人間関係に触れることは良いけれども、物理的にそれができない時代になった場合に、この問題をどう考えていくのかということ、やはり新しい時代に合ったロジックが必要になっていくのではないかなと思います。全国で小さい町へ行くと1学年1クラスでは駄目といっても、それしかできないところが山ほどできているわけですので、新しい時代に合った教育の表現の仕方をやはり知恵を出していく必要があるのではないかなと思います。その中で子供たちへのアプローチをどう多様化させていくのか、そういう質の多様化によってウイークポイントと言われているようなところをカバーし、知恵を出していかないと、まだまだ少子化は続いていくので、恐ろしいなとも感じています。五十嵐校長、期待しています。</p>
<p>(五十嵐 苦小牧東中学校長) はい。</p>
<p>(岩倉市長) 実際にはどうでしょうか、教職員や校長先生なり教頭先生なり、今までと違ったコミュニケーションというのはやはり必要になってくるのですか。</p>
<p>(五十嵐 苦小牧東中学校長) そうですね、あります。</p>
<p>(岩倉市長) そうですよ。</p>
<p>(五十嵐 苦小牧東中学校長) もともと東中学校区の教員同士の連携というのは、今までもやってきましたが、新たな校舎になり、目標があるので、今、非常に意欲に燃えています。先ほど出ていた若草小の問題がやはり大きくて、若草小の先生方からしたらうちらは別だとか、保護者もうちはどうなるのかと、こういう感想を持ってい</p>

<p>るのではないかと思ってしまうのですよね。でも違う、一緒にやる、たまたまこちら</p>
<p>は校舎が一緒なだけというメッセージみたいなものを常に出していきたいなと思って</p>
<p>いるところです。それともう一つあり、齋藤委員もおっしゃっていましたが、一貫校</p>
<p>の義務教育学校のメリット、デメリットはあります。いわゆるリセットできないまま</p>
<p>ずっといってしまうのです。しかし、若草小と東小が分かれていることによって、逆</p>
<p>の意味である程度、化学変化を起こしてくれるといいなと思っています。そこで、</p>
<p>マンネリ化ではないですが、若草小の子供たちが入ってきて、ずっと過ごしている東</p>
<p>小の子と融合したときにいい化学変化が起きるといいなと思っています。それが市長</p>
<p>の言われた逆の意味でのいじめの深さで、こっちはもう特別感を持っている子、こっ</p>
<p>ちは対抗意識持っている子供たちが入ってきて、変な意味で対立しなければいいなど</p>
<p>もしています。逆の意味でいい化学変化を起こしてくれると、良い意味での融合に</p>
<p>なるのではないかなというところを売りにしたいなと思っていますが、少し気がかり</p>
<p>なところではあります。</p>
<p>(岩倉市長) 併設校というのは、そんなにたくさん事例はないのですよね。</p>
<p>(五十嵐苦小牧東中学校長) はい、そうですね。</p>
<p>(岩倉市長) 逆に一貫校の方が増えているのですよね。</p>
<p>(五十嵐苦小牧東中学校長) 増えています。</p>
<p>(岩倉市長) だがら、併設校というのは逆に難しいかもしれないですね。</p>
<p>(五十嵐苦小牧東中学校長) 東京都を例に取りますと、江戸川区だったですかね。</p>
<p>もう最初から併設型、いわゆる一貫校ではないという打ち出し方をしているのですが、</p>
<p>問い合わせをしたらやはり行政的な都合でした。ただ、その後づけで先ほど言われた</p>
<p>一貫校にはない、いわゆる融合型でリセットできるというメリットもありますという</p>
<p>ところを打ち出していました。しかし、一貫校のほうが多いです。</p>
<p>(岩倉市長) なるほどですね。今後を、楽しみにしたいと思います。委員の皆さん</p>
<p>で何か質問、あるいは言い忘れたこと等があればご発言ありますか。特によろしいで</p>
<p>しょうか。</p>

(一同「なし」の声)

(岩倉市長) それでは、本当に苫小牧にとっては全く新しい第一歩になりますので、非常に高い関心を持ちながら、東中、東小の歩みをこれからも見ていきたいなと思っております。

(2) その他

(岩倉市長) 次に、「その他」であります。何かございますか。

(一同「なし」の声)

3 閉会の宣言・・・14時57分